

太子山南麓遺跡の調査

—関西電力既設高圧線鉄塔建変えに先立つ確認調査—

1993年12月

太子町教育委員会

例言

1. 本書は、兵庫県揖保郡太子町鷓字清水259-1外3筆における関西電力高圧送電鉄塔建変え工事に先立ち実施した遺跡確認調査の実績報告である。
2. 調査は兵庫県揖保郡太子町鷓字清水259-1外4筆において平成5年10月1日～10月20日にかけて実施したものである。
3. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次、海野浩幸、が担当した。
4. 調査・整理事業に当たっては、関西電力株式会社、太子町シルバー人材センター、喜多村測量株式会社、伊藤慶子、岩村千穂、小山真紀、中村豊子各氏の協力を得た。
5. 本書の執筆、編集は三村修次、海野浩幸、が担当した。

本文目次

例言

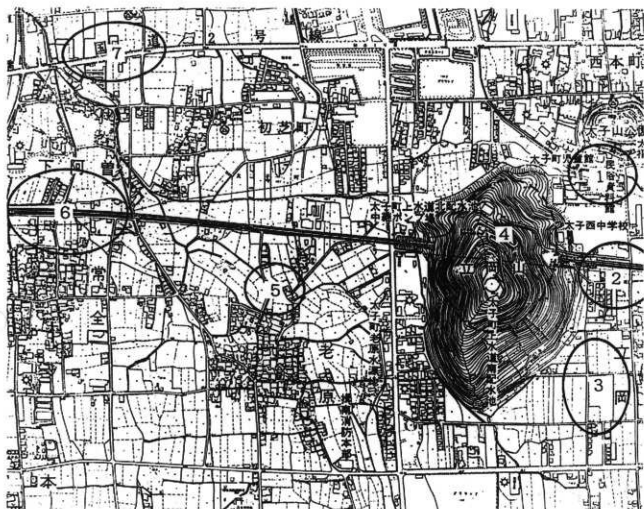
調査に至る経過	1
調査の概要	1
まとめ	7

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	1	第4図 第1・2・4調査区 土層断面図	4
第2図 調査位置図	2	第5図 第3調査区 遺構配置図及び土層断面図	5
第3図 調査区設定図	3	第6図 遺物実測図	6

写真目次

写真1上 発掘作業風景	写真3上 第3調査区(北から)
下 第1調査区(東から)	下 第3調査区溝3土層
写真2上 第2調査区第1トレンチ(北から)	写真4上 第3調査区土坑2(東から)
下 第2調査区第2トレンチ(東から)	下 第4調査区(東から)



第1図 周辺遺跡分布図

- | | |
|-----------|--------|
| 1 太子山南麓遺跡 | 5 老原遺跡 |
| 2 立岡遺跡 | 6 常全遺跡 |
| 3 立岡南遺跡 | 7 阿曾遺跡 |
| 4 立岡山古墳群 | |

太子山南麓遺跡の調査

1. 所在位置

兵庫県揖保郡太子町鶴字清水259-1外3筆

2. 調査主体者

太子町教育委員会

3. 調査担当者

三村修次、海野浩幸

4. 調査期間

平成5年10月1日～20日

5. 調査面積

70㎡

6. 記録作成

土層断面図 (1/20) 遺構実測図 (1/20)

第2図 調査位置図

平面図 (1/100) 遺物実測図 (1/1)

写真 (モノクロ 35mm、カラー 35mm、カラーリバーサル 35mm、6x7版モノクロ、カラー)



7. 調査に至る経過

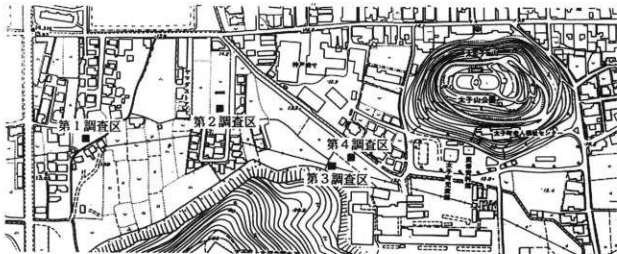
今回、関西電力株式会社により、既設の高圧送電鉄塔5ヶ所を建変える事となった。工事の実施される地域は、一条家領弘山荘域に入り、又、周辺には太子山南麓遺跡が存在する。同遺跡は太子町児童館建設に先立つ確認調査で、遺構は確認されなかったが奈良時代末から平安時代末にかけての遺物が出土しているため、今回の確認調査を実施したものである。調査地は、いずれも標高13.20m前後の水田及畑作地である。

8. 調査の概要

調査は西から順に1～4の調査区を設定して実施した。以下に各調査区の概要について記す

第1調査区

約110cmの盛土、約6cmの旧耕土、約10cmの黄褐色客土で旧河道状の暗灰色砂澁層となる。遺構は検出されなかった。



第3図 調査区設定図

第2調査区

2m×4mのトレンチと1.5m×6mのトレンチ各1を設定して調査を実施することにし、前者を第1トレンチ、後者を第2トレンチとした。第1トレンチでは、約20cmの耕土、約6cmの旧耕土の下に明灰色土と淡黄色土とによる互層が約60cm続き、暗灰褐色砂質土となる。

第2トレンチでは、約20cmの耕土、約10cmの淡黄色客土、約30cmの淡灰褐色土で暗灰褐色砂質土となり、淡灰褐色砂質土と続く。

第3調査区

約20cmの耕土、約4cmの黄褐色客土で淡黄褐色土・地山となる。この調査区で溝、土坑ピット等の遺構が検出された。

溝-3 北東から南西方向に走り、ほぼ直角に東南方向に曲がる。深さ30~40cm、幅約1.5mを測り、断面U字状を呈す。埋土は黒褐色土による単一層である。須恵器甕腹片、土師器片が出土した。

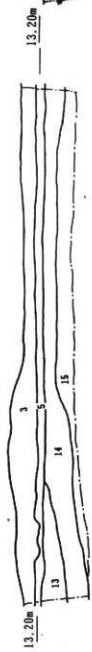
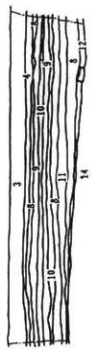
土坑-2 全体形は不明である。深さ40cmを測る。検出部分中央部で深さ5cmの円形の浅い掘込がある。埋土は暗褐色土の単一層で、掘込部分は炭混じり黄色土である。須恵質様の焼成を見せる埴輪片が出土した。

第4調査区

約40cmの耕土、約4cmの黄灰色客土で黄褐色土・地山となっている。遺構が検出された第3調査区の北東約10mに設定されたものであるが遺構は検出されなかった。



13.20m

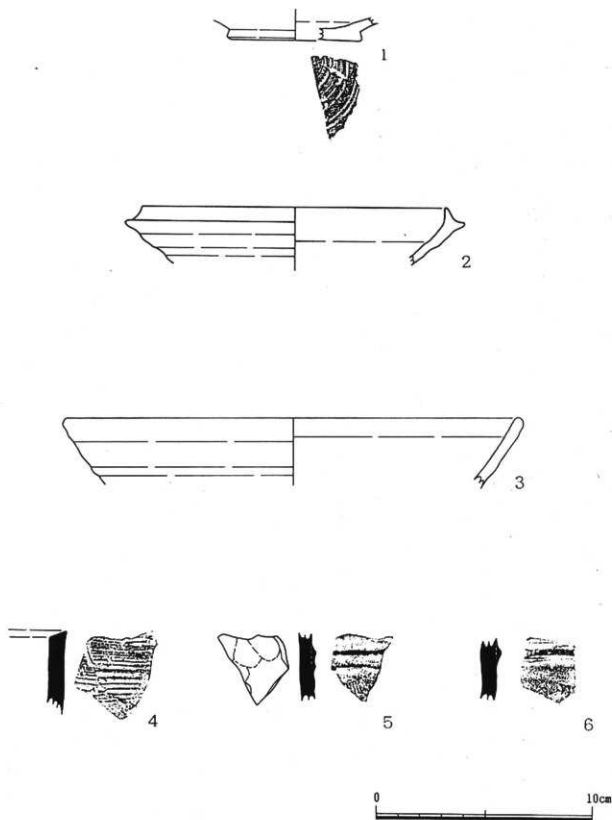


13.20m

- 1 表土
- 2 盛土
- 3 耕土
- 4 旧耕土
- 5 黄色客土
- 6 黄灰色客土
- 7 灰色砂礫
- 8 明灰色土
- 9 淡黄色土
- 10 明黄灰色土
- 11 淡灰黄色土
- 12 淡褐色土
- 13 淡灰褐色土
- 14 暗灰褐色砂質土・地山
- 15 淡灰褐色砂質土・地山
- 16 黄褐色土・地山



第4図 第1・2・4調査区 土層断面図



- 1 須恵器・碗（第2調査区第1トレンチ） 2 須恵器・坏（第3調査区）
 3 須恵器・碗（第3調査区） 4~6 埴輪（第3調査区土坑2）

第6図 遺物実測図

9 まとめ

調査の結果、第3調査区において古墳時代後半の溝と土坑が検出されただけであり、弘山荘関連の遺構は検出されなかった。第1調査区及び第2調査区は旧林田川の河道の一部と推測され、遺跡の存在する可能性は低いと考えられる。ただ、第2調査区では土層の状況から中世以降には水田として活用されていたと考えられる。唯一遺構の検出された第3調査区については、工事及び用地の関係上、限られた範囲内での調査のため、遺構の性格を把握する事は出来なかったが、太子山南麓遺跡にこの時代の遺構の存在を示す手掛かりを得ることができた。同遺跡南方の立岡山に所在する、立岡山古墳群との関連が目される。



発掘作業風景



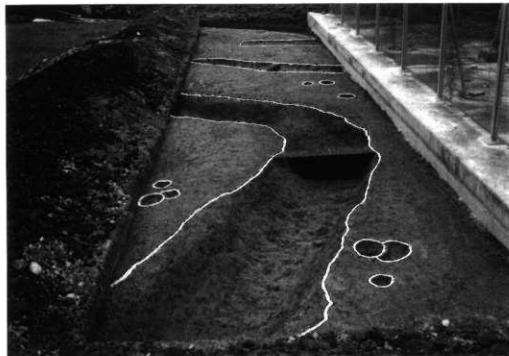
第1調査区(東から)



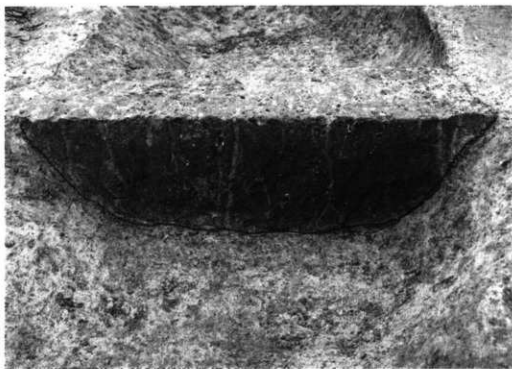
第2調査区 第1トレンチ (北から)



第2調査区 第2トレンチ (東から)



第3調査区（北から）



第3調査区 溝3土層



第3調査区 土坑2 (東から)



第4調査区 (東から)

